資料3-1

本州におけるトキの放鳥について

環境省自然環境局　野生生物課　希少種保全推進室

データ解析：一般財団法人　自然環境研究センター

Ⅰ．能登地域での放鳥

放鳥候補個体は約３カ月間、佐渡トキ保護センター野生復帰ステーションにて順化訓練を実施（飛翔能力や採餌技術等の習得）。

羽咋市南潟付近において、令和８年５月31日にハードリリース方式で８羽を、６月14日にソフトリリース方式により10羽、さらに10月7日に中能登町春木地区において、同じくソフトリリースで９羽の放鳥を実施。（現時点で計27羽）

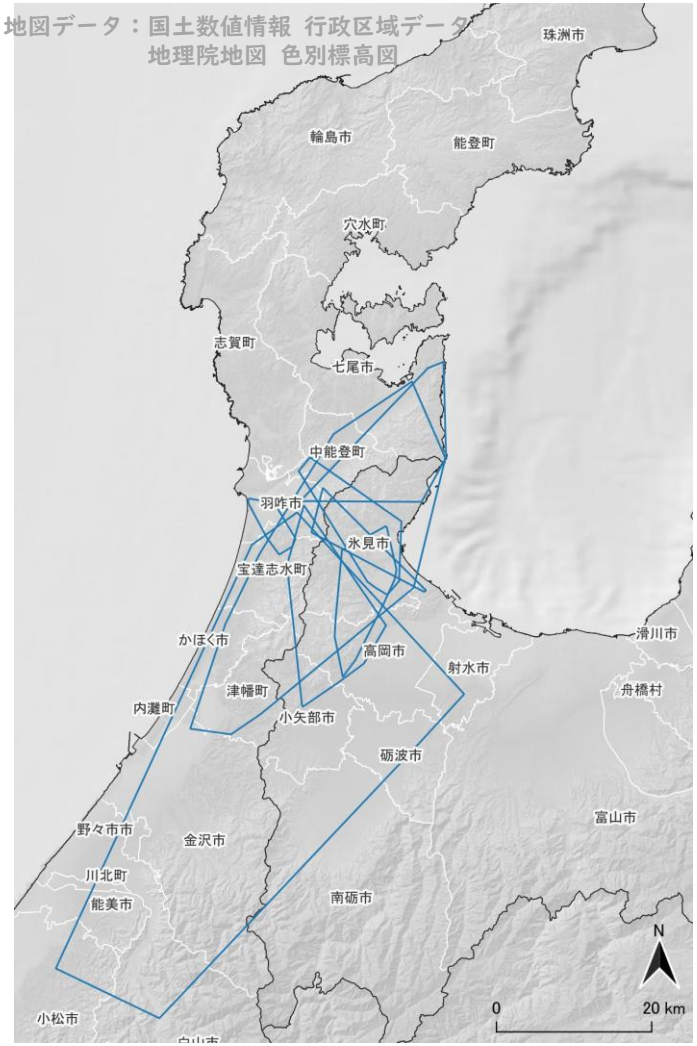


図1.式典および放鳥式（ハードリリース）の様子



図2．仮設ケージからのソフトリリースの様子

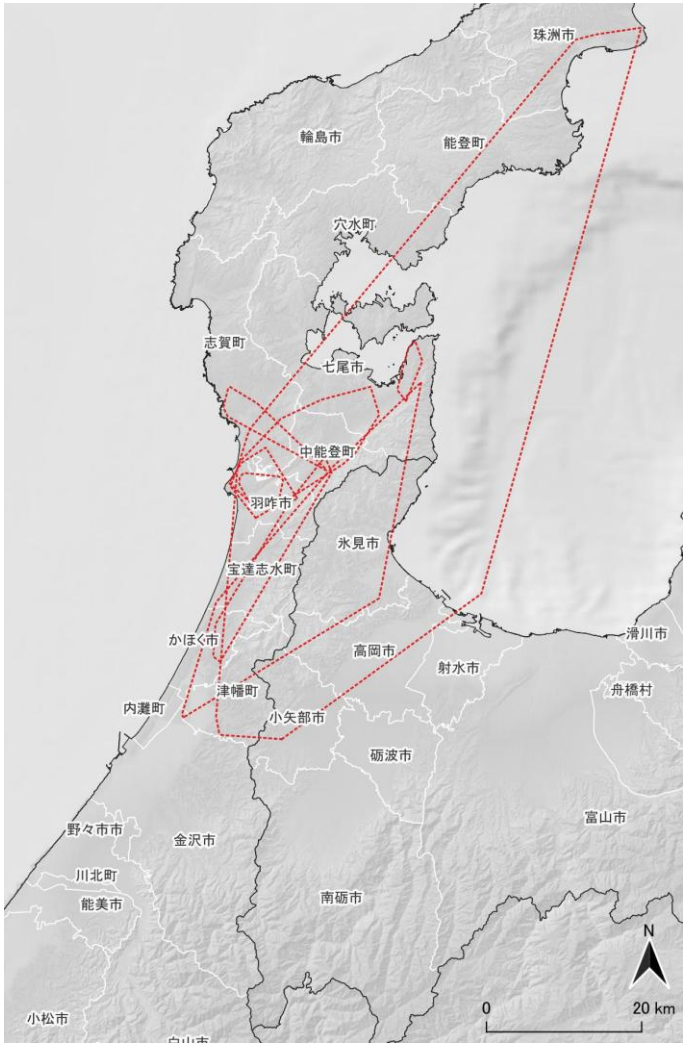
２．放鳥後のトキの分布（GPSによる行動圏の把握）



ハードリリース・オス
（8個体）



ソフトリリース・オス
（2個体）うち一羽は非表示



ソフトリリース・メス
（8個体）

図3.　放鳥された各個体の行動圏（最外郭），ともに8月末まで

3. 放鳥トキの初期定着（滞在）状況

初期定着までの推定日数は、最短0日、最長35日、平均11日であった。
早期に定着した個体がいた一方で、定着までに比較的時間を要した個体も確認された。

表1. 個体ごとの初期定着までの推定日数

放鳥方法	放鳥番号	性別	放鳥時年齢	**初期定着までの推定日数**	初期定着地域	備考
ハードリリース	#566	オス	12歳	**22**	高岡市	
	#568	オス	2歳	**33**	氷見市	初期は欠測が多く空白期間あり。
	#570	オス	2歳	**18**	白山市	
	#571	オス	2歳	**-**	-	欠測が多く情報不足。
	#572	オス	2歳	**1**	宝達志水町	
	#573	オス	2歳	**21**	かほく市	
	#575	オス	2歳	**4**	高岡市	
	#576	オス	1歳	**3**	七尾市	
ソフトリリース	#569	オス	2歳	**1**	かほく市	
	#574	オス	2歳	**0**	羽咋市	
	#577	メス	1歳	**1**	羽咋市	
	#578	メス	1歳	**21**	中能登町	
	#579	メス	1歳	**5**	羽咋市	
	#580	メス	1歳	**1**	七尾市	
	#581	メス	1歳	**1**	志賀町	
	#582	メス	1歳	**35**	氷見市	
	#583	メス	1歳	**2**	津幡町	
	#584	メス	1歳	**11**	かほく市	

※本資料における「初期定着」の定義
日中の測位点と夜間の測位点（ねぐらと見なす）が近接しており、それらが概ね一週間以上継続的に特定地域に位置している状態を、ここでは初期定着とした。

※なお「本州等におけるトキの放鳥の方針」資料に記載の「定着の定義」とは異なる。

4. 個体の合流状況

2026年10月末時点で、一緒に活動している小集団が3つ確認されている。
9月末までの個体の合流状況を以下に示す。
最初に合流が確認されるまでの日数は、ハードリリースから25日、ソフトリリースから11日であった。

①#573（オス・放鳥時2歳）#584（メス・放鳥時1歳）
　#569（オス・放鳥時2歳）
2026年6月25日～9月30日のうち94日、かほく市
#569は7月10日から合流

②#577（メス・放鳥時1歳）#579（メス・放鳥時1歳）
　#580（メス・放鳥時1歳）#574（オス・放鳥時2歳）
2026年7月1日～9月30日のうち92日、羽咋市
#580は9月18日から、#574は9月21日から合流

③#578（メス・放鳥時1歳）#583（メス・放鳥時1歳）
2026年8月26日～9月30日のうち22日、羽咋市・志賀町


志賀町で観察したNo.578とNo.583

図4. 一緒に行動する様子
（のとっきー通信vol.4から引用）

注）同一日時のGNSS測位点の水平距離及び前後の位置関係を考慮し、複数個体が同行していたと推定される事例を抽出した。

5. 能登地域での利用環境（採食地）

谷戸田のような、樹林地に近接した水田等の農地で採食する個体が多かった。
一部の個体は、邑智潟周辺などの開放的な空間で採食していた。

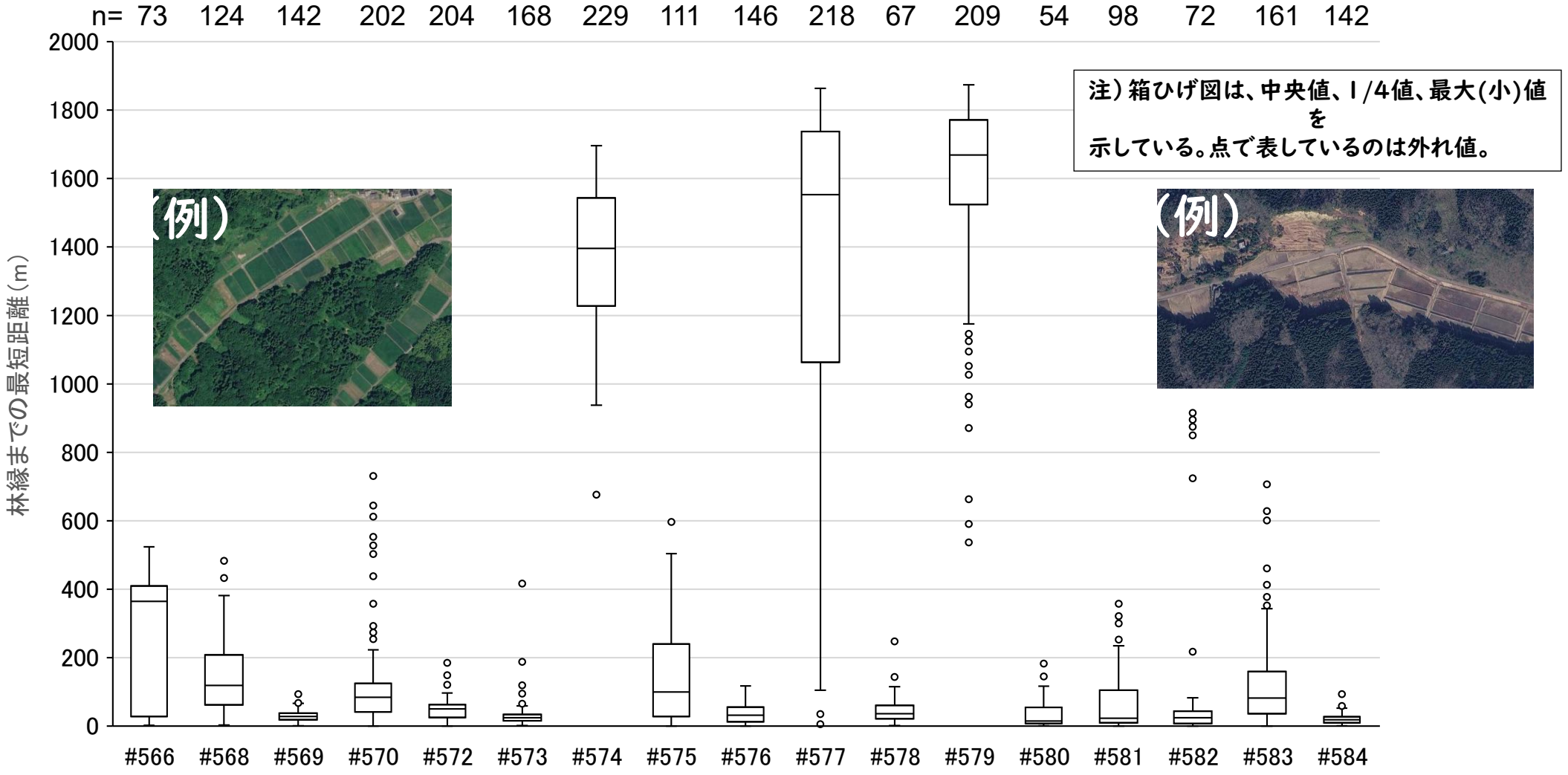


図5．放鳥トキの推定採食地から林縁までの距離

6. 能登地域での利用環境（ねぐら環境）

奥山の山林や谷戸斜面林をねぐらとすることが多いと推定された。
一方、集落周辺林も少なからずねぐらとなっているものと推定された。

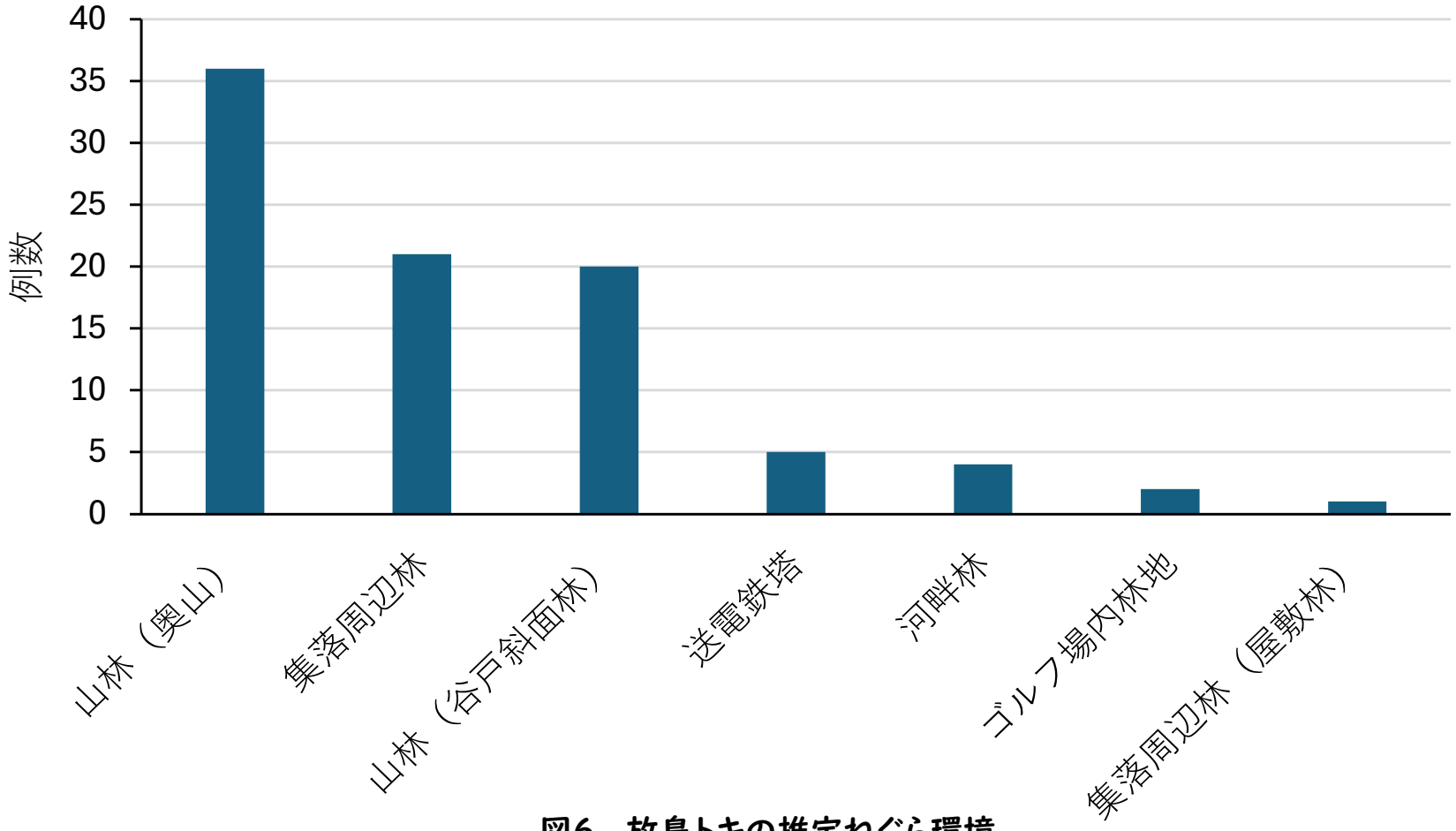


図6．放鳥トキの推定ねぐら環境

【判読方法】
8月末までの有効測位点（n=4165）から、ねぐらと判断される20:00の測位点（n=987）を抽出。そのうえで、個体それぞれ5地点（データ数の少ない#571のみ4地点）を無作為に抽出し、航空写真と重ねてねぐら環境を判読（n=89）。

7. 生息位置情報の公表状況

・現在、週に一度、市町村単位で生息場所を公表。
・追跡機器は、電圧が低下するとデータ送信が中止されるが、再度日光に当たるなどして電圧が上昇すれば蓄積していたデータが送信される。
・現在石川県及び富山県内に生息。

●令和８年５月31日ハードリリース放鳥個体８羽及び６月14日ソフトリリース放鳥個体10羽（計18羽）

	位置情報
10/14時点	羽咋市5羽、志賀町3羽、宝達志水町3羽、金沢市3羽、氷見市2羽、高岡市1羽、南砺市1羽
10/22時点	羽咋市5羽、志賀町1羽、宝達志水町3羽、金沢市2羽、内灘町1羽、氷見市2羽、高岡市1羽、小矢部市1羽、不明2羽
10/28時点	羽咋市6羽、志賀町3羽、宝達志水町3羽、金沢市3羽、氷見市1羽、高岡市1羽、射水市1羽

●令和8年10月7日ソフトリリース放鳥個体7羽（放鳥9羽中、10月23日に2羽死亡確定）

	位置情報
10/7時点	中能登町6羽※、七尾市1羽、宝達志水町1羽、氷見市1羽　※6羽中1羽は12時時点（ケージ内）。その他の個体は夜間の位置情報である。
10/14時点	中能登町2羽、七尾市1羽、宝達志水町1羽、志賀町2羽、不明3羽
10/22時点	中能登町2羽、七尾市1羽、宝達志水町1羽、志賀町1羽、不明4羽
10/28時点	中能登町1羽、七尾市1羽、宝達志水町2羽、不明3羽、死亡2羽

環境省　トキ保護増殖事業のページで位置情報を公開中
https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/toki.html

8. 環境省実施のモニタリングや普及啓発

①放鳥後の重点モニタリングの実施
　放鳥後2週間、地元のチームと合同で実施

②石川県以外の地域での生息状況把握（モニタリング）
　一部、県外に滞在するトキの生息状況を把握。

③土日を中心に、巡視を地元保全団体に委託
　（トキの観察方法の声かけ、マナーの周知）

④モニタリング手法学習用の動画作成
　（今後モニタリングに参加されるボランティア向け）



図7．普及啓発資料（観察マナー、目撃情報収集）



図8．普及啓発資料（トキの生態、Q&A、傷病個体発見時の対応等）

9. 次年度の放鳥予定

令和9年度の初夏（5月下旬または6月上旬）には島根県出雲市での放鳥を予定。
場所は出雲市内の稗原（ひえばら）地区で、近隣市町では近年毎年コウノトリが繁殖。

次ページに示すように、令和9年度の秋は再び能登地域での放鳥を予定。



図9. 出雲市での放鳥予定場所および、佐渡、能登、出雲の位置関係

10. 今後の放鳥計画

10月14日に開催したトキ野生復帰検討会で以下について諮り、委員の了承を得た。
①「本州における放鳥の方針」にも記載の通り、定着・繁殖には継続的な放鳥が必要なため、令和9年の秋は能登地域にて放鳥を実施する。
②その後は当面能登地域と出雲市で交互に初夏と秋を入れ替えながら放鳥を実施する。
③必要に応じて佐渡島で放鳥。その場合は既存のタイミングに合わせて訓練を実施。

表2. 本州における放鳥時期及び地域一覧

年度	初夏	秋	羽数等 （R9以降は現時点想定）
令和８年度	能登地域 （羽咋市）	能登地域 （中能登町）	・初夏：18羽 （ハード8羽、ソフト10羽） ・秋　：9羽（ソフト）
令和９年度	出雲市 （稗原地区）	能登地域	・初夏：最大20羽 ・秋　：10～15羽
令和10年度	能登地域	出雲市	・初夏：10～15羽 ・秋　：10～15羽

以降も繰り返し

※必要に応じて佐渡島でも、初夏または秋のいずれかのタイミングに合わせた放鳥を行う可能性あり